

園のおたより



第 4 号

令和 4 年 7 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

夏休みの体験

園長 小倉 康

ご家庭では夏休みの間に子どものために様々な活動を計画しておられることでしょうか。私も3人の子どもが小さい頃は、山奥や海辺でキャンプをしたり、初めての土地を旅行したり、普段なかなか出来ないことに取り組んだりしたことが、懐かしく大切な思い出になっています。

家族で楽しみながら、まとまった時間を過ごせるのは夏休みならではの親にとってお金と時間を捻出するのは大変ですが、その使い方には様々な工夫ができます。私が少ないお金で長い時間を楽しんだお薦めの方法の一つは、博物館、動物園や植物園、水族館などに、お弁当とスケッチブックを持って行くことです。子どもを動物や恐竜など好きな展示の前のすみに座らせると、リュックサックからスケッチブックとクレヨンを取り出して、きょうだい仲良く長時間集中して描いていました。子どもなりに上手く特徴を捉えているところをほめると、それが自信に繋がりさらに創作意欲が高まりました。

自然体験は子どもの世界を拓げる絶好の機会です。ふだんはさいたま市の中心部で生活しているので、子どもたちは海や山、川や湖で遊ぶことができていません。夜の満天の星空や天の川を見て感動したことはありません。サルやシカ、イノシシ、ウサギ、ヘビなど野生の生き物に遭ったことはありません。海の中には海藻が広がり、大小様々な魚が泳いでいることも見たことはありません。山の中には溶岩の合間から蒸気を噴き出して今にも噴火しそうな火山があることを見たり驚いたりしたことはありません。また関東ロームに覆われた土地に住んでいるので、石にいろんな種類があることも知りません。

ぜひ夏休みの機会にご家族で自然体験をして頂きたいと思います。山に行くなら、川岸での石拾いがお薦めです。次第に色や模様が様々な宝物となっていくことでしょう。海に行くなら、海岸での石拾いに加えて、貝殻拾いがお薦めです。様々な模様の巻き貝や二枚貝、ウニの殻などがコレクションと思い出をさらに豊かにするでしょう。

安全に気をつけて、体験豊かに夏休みをお過ごしください。



季節と園生活

幼稚園での生活の特徴の一つは、「季節」との関わりです。お正月明けには、「あけましておめでとうございます」の挨拶から始まり、干支の話をしします。2月の節分で豆まきをして、3月、5月には、それぞれひな人形や鯉のぼりを見たり作ったりして節句のお祝いをしします。今月7月は七夕。今年も、遊戯室に笹の香りと共に綺麗な笹飾りができました。子どもたちそれぞれの願い事が叶うことを願っています。夏休みが終わると、十五夜の話があり、その後は秋から冬に向かう季節を、木々の変化や外気の移り変わりから体感していきます。幼稚園や保育園の先生を目指して学んでいる学生さんから、ときどきある質問に「先生になってよいことはどんなことですか?」というのがあります。よかったことはとてもたくさんあるのですが、その一つが、季節を感じながら毎日を過ごせることです。子どもたちと一緒に雨の音に耳をそばだてたり、落ち葉の色をじっくり見たり、季節のいろいろな行事を楽しんだり、季節と密接に関わりながら生活できることを、とてもありがたく感じています。また、クラスや園のみんなで歌っている歌も、季節と関連した曲が多くあり、保育室から聞こえてくる曲から、季節を感じることも楽しさの一つです。

クラスの担任から現在の職になり、いろいろな方宛てにお知らせや願いをお送りする機会が増えました。その際、いわゆる「時候の挨拶」を目にすることも増えました。「〇〇の候、・・・」と、〇〇に季節感のある言葉が入るご挨拶です。6月であれば、梅雨、梅雨寒、梅雨空、長雨など、雨の季節らしい挨拶や、小夏、立夏、青葉、深緑、向暑など、もう夏が始まったかなと感じる挨拶があります。今月7月は、猛暑、酷暑、炎暑、盛暑、厳暑、極暑、烈暑と、挨拶の言葉からもとびきりの「暑さ」をイメージできるようになります。8月の挨拶になると、残暑、晩夏、残夏、暮夏、暁夏、早涼、秋暑と、少しずつ、暑さから逃れて秋を感じる言葉が続きます。夏休みが終わり2学期の始まる9月には、早秋、爽秋、新秋、孟秋、秋冷など、少しずつ朝晩ひんやりとして過ごしやすくなる季節らしい挨拶が変わっていきます。ほかにも調べてみると、その時期その時期にたくさんの時候の挨拶があり、季節の移ろいを大切にしながら生活してきた先人の知恵を知ることができます。

ところで、今年は、6月終わりには、早い梅雨明けと共に、猛暑の候、酷暑の候、厳暑の候という挨拶がぴったりの気候が続きました。新たに、「恐暑の候」「痛暑の候」「難暑の候」などといった挨拶があってもよいのではと感じる毎日でした。挨拶の言葉でいうと、ひと月早く進んだ感じがします。とは言え、夏の終わりがひと月早まる様子はなく、まだまだ晩夏の候、暮夏の候、秋暑の候という訳にはいかないようです。心と体の健康に十分に留意しつつ、どうぞこの季節らしい生活を楽しみながら、よい夏休みを過ごしてください。

(副園長)



1くみ

「冷たくて気持ちいい」



梅雨が明け、じりじりと太陽が照りつく日が多くなりました。今年の夏は、酷暑といわれるほど、暑くなっています。子ども達は暑さに負けず、毎朝、頬を赤くし、汗をかきながら「おはよう！」と元気に登園してきます。4月の入園時から3か月ほど経ち、みんな笑顔で登園してきてくれるようになり、1組の先生だけでなく、園の先生達全員に挨拶をする姿を見るようになりました。着替えや靴の脱ぎ履きなどの身の回りの自分でできることも、毎日意欲的になってきています。

6月の末から水遊びが始まりました。水遊びの1週間前から、毎日「あと何日で水遊び？」と尋ね、水遊びをすることをとても楽しみにしていました。水遊びがついに始まり、準備体操として初めて「はとぼっばたいそう」を行いました。初めての体操にみんな先生をじっと見つめて、一生懸命体を動かします。日常的にリズム遊びを行っているためか、あっという間に覚え、1組お気に入りの体操になったようです。

さて、水遊び初日は、プールとたらいに水を張り、道具は何も出さずに遊びました。道具は何もないけれど、自分の手や足をうまく使っていました。手で水をすくったり、足で水を蹴ったり、水に入るだけで体を使って色々な水への関わり方ができ、とても面白い水遊びの始まりになったようです。2回目、3回目と続く中で、じょうろをシャワーのように流したり、牛乳パックのバケツで水をすくい、スポンジでバケツやプールを洗ったり、水に浮く魚を竿を使って魚釣りをしたり、様々な水遊びをしました。水に対して一人一人様々な関わり方がありますが、水遊びをした降園時に、子ども達に「水遊びどうだった？」と聞くと、「冷たかった！」「気持ちよかった！」と、暑い日に入る水の冷たさ、心地よさを感じながら過ごしています。6月末から7月にかけて天気にも恵まれ、水遊びをたくさんすることができました。日差しのある日は、水が温くなるようで「お風呂みたい」「あったかい」という声がし、曇りの日は「冷たい！」と水の温度が違うことも遊びながら感じているようでした。

7月に入り、子ども達から「もうすぐ夏休みだね」という声が聞こえ、幼稚園初めての夏休みを楽しみにする姿があります。夏の暑さとうまく付き合いながらになるかと思いますが、1組のみんなと9月に幼稚園で元気に会えることを楽しみにしています。



2くみ

「今だけの遊び」



水遊びが心地よい季節になりました。日差しが特に強かった6月末頃には「プールはまだ？」と水遊びを心待ちにする声もありました。水鉄砲や魚の玩具など、水遊びならではの物も使いながら、自分のペースで水に関わっていく姿があります。季節ならではの遊びを大切にしながら過ごしているところです。

子どもたちは好きな遊びの中でその日の気温や日差しを肌で感じながら、自ら過ごしやすい場所を選んでいきます。最近の2組ではごっこ遊びが盛んで、動物や妖怪、お店やさん、警察など様々な役になりきって遊んでいます。例えば、「カップのお面を作りたい」という一言から、カップごっこが始まりました。まず、紙皿と画用紙で頭にのせるカップのお皿を作りました。そのお面をつけてカップになりきった人は、次に大きな積み木を重ねて橋を作りました。どうやらそこは、カップの住んでいる橋のようです。それを見て、自分もカップの仲間に入りたいと思った人たちが同じようにお皿を作り、一緒にカップの橋で遊び始めました。友達の面白そうなイメージに共感して、同じものを身に着けてやってみると、新たな気づきがあるようです。

別の日は、ままごとの中で、ラーメンをご馳走してくれる人がいました。「辛いラーメンです」「豚骨ラーメンです」など、とても具体的なイメージがあるようでした。降園前にラーメンについて話題にすると、みんな大好きな食べ物であったようで、「チャーシューがあるよね」「コーンが入っているのが好き」などたくさん教えてくれました。また、「湯切り」をしてみたいということだったので、後日具材の絵が描かれた画用紙と、湯切り用に味噌を溶くのに使う持ち手付きのざるを用意しました。カップとはまた違う、現実の生活に根付いたごっこ遊びで、具材を切ったり、どんぶりを作ったり、お客さんとお店の人に分かれてやりとりをしたりして楽しむ姿がありました。

ごっこ遊びには、子どもたちの豊かなイメージと今の生活が凝縮されています。また、大きくなると、次第にこういった遊びはされなくなっていきます。いろいろな意味で今だけのごっこ遊びを大切にしていきたいと思います。



3くみ



「みんなで奏でる」

障園前のひとときの中で3組のみんなが特に好きな時間が、歌を歌う時間です。少し難しい歌も歌えるようになり、『たのしいね』や『バスごっこ』など4月からいろいろな歌を歌ってきました。中でもお気に入りの一曲は『ともだちさんか』です。“3組音楽会”と題して、半分ずつに分かれてお互いの歌を聴き合ったり、遊びの中でコンサートを開き、歌や合奏を披露したり、自分の声や楽器を使って自由に表現したりすることを楽しんでいます。

3組が楽しんでいることを1、2組の友達にも知ってもらったらどうかと思い、七夕の子ども会で歌を披露することを提案してみました。「やってみたい」と声が挙がり、さっそく何を歌うかみんなで話し合いました。お気に入りの歌を1、2組にも聴かせてあげたい人、新しい歌を歌いたい人、オリジナルの歌を披露したい人とたくさんのアイデアが挙がり、なかなか決まりません。そんな時、「子ども会っていつやるの」と小さなつぶやきが聞こえてきました。その言葉がきっかけとなり、「もうすぐだから新しい歌は無理だよ」と意見がまとまり、これまでたくさん歌ってきた『ともだちさんか』と『たなばたさま』を歌うことになりました。

次にどんなふうに歌うかを定めることにしました。「びって立っての方が3組さんみたいでかっこいいからそっちの方がいい」「楽しそうに見えるからみんなで手を繋いだ方がいいよ」など、それぞれに大切にしたい思いがあり、なかなか決まりません。そこで、お互いが歌っているところを見てみることにしました。かっこいい姿を見もらうために『たなばたさま』は気を付けの姿勢で、楽しく聴いてもらうために『ともだちさんか』は手を繋いで歌うことに決まりました。子ども会当日は、たくさんのお客さんに緊張しながらもみんなで決めたことを意識しながら歌うことができ、1、2組のお客さんが楽しんでくれた様子に達成感を感じているようでした。

子ども会に向け、楽しんでもらうにはどうしたらいいかを考えてアイデアを出し合う姿に、3組としての思いの成長を見ることができました。2学期にはどんな頼もしい姿を見せてくれるのか楽しみです。

保護者の皆様には1学期、たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。長い夏休みになりますが、どうぞ元気にお過ごしください。